
俺的桃太郎!

羽流鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺的桃太郎！

【Nコード】

N0308P

【作者名】

羽流鬼

【あらすじ】

金髪・ピアス・ツッコミ！

私立高校に通う普通の不良少年は平凡な日常を満喫していた。

が、しかし！！

本屋で桃太郎を立ち読みしていた小学生（神様）によってその日常は崩れてしまう・・・！！

第一章・俺〃桃太郎 神様〃小学生（前書き）

そのの、何でも受け入れてくれそうなきミ！
なんか心が広そうなアナタ！！

ちよつと（かなり）変わったとお話読んでいきませんか？

え？読みたくない？？

第一章・俺〃桃太郎 神様〃小学生

おはこんにばんは。鬼谷昇太^{キタニショウタ}です。ちなみにおはこんにばんは、は俺が今考えた朝昼晩全部で使える素敵挨拶（おはよう・こんにちは・こんにばんはの略）だ。

そして、俺は誰にむかって話しかけているのか未だに謎だ。

1

私立高校一年。金髪・ピアス。周りからは不良と呼ばれる部類の人間の俺。

家には母親が愛人（アメリカ人）を連れ込んでいるので、とりあえず学校には通っている。

授業は椅子に座って、呪文を聞いているみたいでイヤなのでたいてい屋上で過ごす。

それから昼休みになったら、たまにカラス共が俺様の昼飯狙ってくるので、カラス共と戦いながらマンガ片手に昼飯を食う。（結構器用だと思つ）

それが俺の日常。

まあ、普通ではないな。うん。

そして今日もいつも通り屋上で時間を潰していると、ポツッとめ
たいものが鼻についた。

「ん？雨か」

ポツポツと少しずつ降っていた雨は、やがてシャワーのように降り
出してきた。

「しょーがねえな・・・ゲーセンでも行くか」

そう呟くと、急いで校舎の中に戻り、傘たての傘を一本パクリ、学
校から出た。

異常事態発生15分前。

2

「ふぁー・・・っと・・・暇だなオイ」

何か面白いことはないか、と思ったときなにやら騒がしい声が耳に入った。

「うおー！なんじゃコレ！？じじいーに真つ二つに斬られたのに生きてるよ！？すげーな桃太郎！！」

どうやら本屋で立ち読みをしている小学生の声のようだ。

つか、本屋で桃太郎立ち読みって・・・普通雑誌とかだろう。

「しかもなんで桃太郎？ダセエーだろ」

うっかり本音をこぼした俺。

すると桃太郎を読んでいた小学生がコツチへ近づいてきた。（人間か疑いたくなる速さで）

しかも精一杯背伸びをして俺に怒鳴りつけてきた。

「貴様！桃太郎をバカにするのか！？」

「いや・・・別に」

情けないが小学生の迫力にまけて、少し声が小さくなる。

「言っただろう！！桃太郎はダサくないぞ！！」

おまけに周囲の通行人や本屋にいる人の視線がすべて俺に向けられる。

なんで！！？

「いや・・・分かったから」

早くこの状況から抜け出したい俺はそう返事するしかなかった。
コレでこの小学生も納得するかと思いきや・・・

「いやー！わかってない！貴様は分かってないぞ！！」

「いや、は？っーかい加減にしろよ」

流石にキレかけていた俺に更なる悲劇が起こることになる。

「カミサマに逆らうきか？いいだろう・・・貴様に。桃太郎の素晴らしさ＋苦勞をあじあわせてやる！！」

「はい！？な、何言って・・・」

神様！？カミサマ！？かみさま！？髪様！？
何を言っているんだこの小学生は！

「フハハハハ！死ねい！」

混乱している俺に小学生が神様らしからぬ台詞をはいた。

すると何故か俺の周りの地面はブラックホールのように真っ黒になり、驚くことに俺の体はだんだん地面に吸い込まれていた。

「何何々！？どうした！？液化化！？」

さらに混乱する俺！それをあざ笑うかのように神様はこういった。

「十分に俺様を楽しませろよ。ニンゲン！フハハハハ！」

こうして俺のこの世界で最後に見たのは、小学生の超ウザイ顔という最悪の結果となり、誰にも別れを告げることもなく地面に吸い込まれてきた……。

あ、死んでねえよ!!? ?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0308p/>

俺的桃太郎!

2010年11月21日04時49分発行